



自轉車乗りの横暴

無知なる自轉車乗りの横暴振りは目を追ふて甚しくなつて行く交通禍の數も其比率が自轉車乗りにあることは吾々の日常目に映る所である、其横暴振りは自動車又は荷車など前行車を無理に乗りぬけること、歩道を我物顔に乗り行くこと、電車、バスなどの停留場で乗降客を横目ににらんでぬけ行くこと、交通信號所でまだ赤の消へぬ内にいち早く疾走すること、交通警官の不在又は横向きを見ずましてストップ信號を無視して疾走すること、下車を禁止せられ居る急坂をハンドルを手放して乗り下ること暮れゆく街をヘッドライトもなくベルも鳴

假面劇

らさず疾驅すること等擧げ來れば歩行者の迷惑危険感は大であつて老人、婦女、小供等のおびやかされることの甚しきことはいくどくしく言はずもがなである、交通取締上此等を見逃しておることは如何なものであるか、交通巡查の苦勞は察するに餘りあるが何んと言ふても警察力でなければ事を守らない國民であるから何んとか此等交通上の脅威行爲を嚴禁してもらいたいものである。(比日生)

路面舗装の凹凸を直

せ

砂利道ならばともかく立派に舗装した都市の道路の路面が其修理の行き届かざる爲

注 意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

めに凹凸甚しく大雨の際などメインロードのそここに泥池を出現し電車軌道の處々水中に没入し自動車が疾走することに飛沫は路幅一面に飛散し五、六米位隔だたりおる店舗の商品を汚すことや歩行者の帽子から泥水をあびせかけることは決して珍らしくないのである、パムポメーターを使用せずとも其不陸の甚しきことは一見明瞭である、夫れを知らず顔にして居る道路の管理者の考がわからない、舗装施工の際にはやれ瀝青マガダムだ、やれ瀝青コンクリートだ、やれシートアスファルトだ、やれサンドアスファルトだやれ煉瓦舗装だ木塊舗装だやれ何んだかんだと有名な技術者達が臆味噲をしぼつて此の工法でなければ舗装し

ない方がましだなどと主張するものだが鋪
裝後半歳をすくるとあの状態だ、後の始末
は誰がするなどとすまし込んで居られた義
理ぢやあるまい、道路改良も此處らあたり
の仕事がある何んと當局者に注意してもら
いたいものである。(王生)

選舉肅正と益踊

眞劍味で政界の淨化を目ざして割策され
第一義として選舉の肅正が企てられた、政
府の吏僚も會て官公吏たりし閑人も官製
私製の青年團や教化團體などまでが参加さ
れて居ると傳へられて居る運動は昔時津々
浦々山の奥まで普及した「カーチニーシャ
かわいや分れのつらさ」の松井すま子が唄
つたトルストイの復活の歌と同じく普及し
て來た。之れも既成政黨員や選舉ブローカ
ーなどに依つて不純にされ選舉が自然に全
國的に淨化を要求するに至つた其時勢と内
相初め内務省の首脳部が乗り出した結果で
あつて其成果が意外に少ないこととしても

政治教育としては確かに有効なものである
と確信する、併し事を餘りに大衆化せんが
爲めに益踊りにまでに進出せしめては運動
そのものゝ嚴肅敬虔なるべきことを損傷す
るものぢやあるまいか熱慮を要する問題で
あると思はるゝが天野氏の作つた數へ歌な
ど其歌詞は頗る感心する夫れは次の如きも
のである。

政治の公明正大

一つとや開け行く世のまつりごと、強く正
しくほがらかに

舉國一致

二つとや筆取る人も鉄とるも、心は一つ國
のため

實質尊重

三つとやみのる稻穂は垂るとや實のある人
を世に出だせ

人物本位

四つとや善きが上にも善き人を、選ぶが國
の榮なり

民心涵養

五つとや今を盛りと咲く花も、心一つの種
がもと

棄權防止

六つとやむだに捨つるな一粒も、つもれば
塵も山となる

君子の爭

七つとや仲好い友も國のため、立つて争ふ
雄々しさよ

大御心奉體

八つとや山より重き仰せごと、そむけばた
ちまち神の罰

國士推舉

九つとや心正しくなきけある、人を選ぶが
國のため

國威發揚

十とや豊さかのぼる日の本の國の光はいや
さかに

どうです永田青嵐宗匠一つ唄つてみられて
は(淡路生)

匡救事業のモンスタ

地方農村の救済を目標に昭和七年以降三ヶ年に涉り施行した時局巨救土木事業も非常時局の颶風襲來の爆音に依り國防といふ一大事業が出現した爲九年度で打切られたが材料券銀等の暴騰などに原因して豫定が裏切られ設令十年度に於ての後始末費が割當てられたものゝ半分通じた道路「一部改修された河川」附帯工事が取残された橋梁」などが隨所に見受けられて土木のモンスターとして地方民に取扱はれておる、即ち折角の巨救事業も未完の儚ない運命を辿る身ぞらとなつて居る、何んと此醜き姿を始末する方法はないものであらうか（後樂生）

交通の取締とウンチ

ヤンの大雄辯

Y市〇街にて發生したゴーストツプを無視したと云ふ圓タク運転手Aが正式裁判を

仰いで其法廷で圓タク運転手の立場から其體験に基き陳述した其雄辯は交通取締の局に當る者に取つて他山の石として一顧の値がある、その陳述要旨は「T市に比べるとY市の交通取締はなつて居りませんよ、最近は科學的な交通標示で宮城前の様な圓タク激流地帯でも事故が少く、一方吾々も相當責任を痛感し違則のない様心懸けてゐます、所がです…先日〇街の交通整理は車のスピードを無視し飛んだ所でストップとなりましたが、悲しいかなその際私の車は已に電車軌道を越して居り止まるも退くも出來ず却つて進んだ方がよからうと適宜の處置を取りました、案の條警察に連れて行かれて科料二圓、それも司法主任が「双方言分があることだから二圓でお前も手をうつたらよからうとすゝめられましたか怪しくらん話です、私の十五年間の圓タク經驗から押してもこんな無茶な取締はなく一般業者のため公平な裁判を仰いだ次第です」。

々考へさせらるる陳述である（舊交通掛員）

東京案内橋づくしの快感

先夜我が甲州の山猿にも快感を與へてくれた、ラヂオの東京遊覽バスガイドガール山田順子村山喜美子兩嬢の橋づくしは野卑な俗論や落語や諷の分らぬ洋樂などよりナンボウ世の爲めになるか大菩薩峠の麓でもヤンヤと拍手して聞いた、放送を聞かない「道路改良」の讀者に其文句を御知らせしたい、編輯の方に願ひます夫れはこうだ、「先お江戸日本橋で唄はれる日本橋から出發いたします、彌次郎兵衛、喜多八の東海道藤栗毛も此處が振り出しました。次は一ツ橋、徳川時代此處に御三卿の一つ一ツ橋家の御邸があつたところです。今度は純日本式の橋の辨慶橋から赤羽橋へ向ひます。赤羽橋は此橋の上で有馬の化猫を退治したといふ話です。吳服橋より一石橋へ出て淺草橋にやつて來ます。この橋は淺草橋と呼

んで昔は江戸三十六見附のうち淺草見附で陸羽街道の神田川に架けられたものです。これより兩國橋を渡ります。こゝは花火で名高い兩國の川開きとして江戸の名残りを今なほとめてゐます。君は今駒形あたりほととぎすの唄で知られた駒形橋へ出ますこの隅田川だけでも、清洲橋をはじめ、千住大橋、白鬚橋、言問橋等ありますなかを吾妻橋を渡り終りといたします。吾妻橋は以前の橋は震災のとき焼け落ちまして今は立派な鐵橋となつてをります。河川に富んだ大東京は橋の都で、その數四千三百九十餘といはれ、恐らく數において世界一ださうです。(介石の弟子)

都會から騒音を追つ

拂へ

内務省が都會の騒音防止に乗り出して來たと傳へられて僕は生命が延ばされた感がある店先にソロバンはじくその耳に響く騒音には甚だ惱まされる、道場近くに住むの

でヤーエイのかけ聲打合ふシナへの音に讀書を妨げられて居る上に街頭の騒音は泣きつらに蜂だ、市電の喧し屋の親玉は動かない所だが、自動車警笛、バイブレーション(排氣管の爆音)オートバイ、荷車、人間の足音(下駄の音)等々がこれに次いで

ゐる、夫れで防止規則の骨子とする所は

- ① 自動車の金屬的な狂音を出すクラクションを止めて手押ラツパとする
- ② トラツク獨特の騒音防止としてはソリツド・タイヤを廢止して空氣入タイヤとする
- ③ オートバイの騒音を防止するため機關の爆發に適當な装置をするやう規定する
- ④ 路面電車についても疾走の際線路と車輪の接觸から起る騒音防止のため技術上特殊の装置を命令する
- ⑤ 各國大公使館の乗用車は治外法權を楯にとつて相變らずクラクションを使用してゐるが、この際警視廳が外務省に

交渉し手押ラツパ使用について極力談じこむことであるとのことである、大賛成だ速行を望む(質屋の小僧)

天井知らずの軍事費

とは

鈴木茂三郎氏と云ふ御仁が「北海」新聞に軍事費の無限な膨脹に關しての一文を寄せて居るが中々味のある言ひ分である、一部を御紹介しよう、夫れはこうだ。

天井があるやうで天井の無いものは軍事費であらう。

陸相や海相は、政黨や新官僚とは違つて軍人なので、率直で純眞で、正直だらうと思つて、うつかり安心してゐたところ、どうしてお人が悪い。

陸軍は去年か、一昨年頃迄は滿洲の匪賊は、明日にも無くなつて、滿洲事件費は遠からずして平年化するやうな事を言つてゐたのであつたが、近頃は、そんな古い證文は反古にして了つて、事件費はいくら貰つ

たつて不足らしい顔色である。

○

海軍はロンドンの軍縮準備會議の前後頃迄は、たとへ會議が決裂するに到つても各國に建艦競争のおこる心配はないと言ふ事を國民に説明もしたし誇大に宣傳もしたのであつたが、今日は、世界が建艦競争の時代に這入つたといふ事實を否むものも無いありさまで、建艦費はいくらあつたつて満足されそうもない状態である。

尤も、考へて見れば、陸相や海相は、兵法、戰略の大家である。かうなつたのは、國民が陸海相の優れた兵法、戰略に敗けた譯で、我國の兵法、戰略のためには乾杯すべき事であるかも知れない。

我々は現地の實際について知るところが少い。知るところが少い故にこそ、灼熱した現場のものよりは、問題を大所、高所から見たり考へたりすることも出来る譯なのだ、なるほどこんなふうでは軍事費はい

くらあつたつて足りないのは無理もないと思はれることが多々ある。

ところが軍事費は必ずしも天井の無いものではない。海軍の一將校で陸海の空軍を單一組織にすれば、もつと軍事費を節約することは不可能ではないとの主張を公表したものがあつた。

軍人のなかにも、さうした意見があると見て見れば、國民がここで氣を取り直して國民の手によつて解決することにすれば、天井知らずの軍事費を無理のないものに減額して、國民の負擔を軽くし、戰爭の危険を防止することが出来ないものでもなからうかと思ふ。(女海生)

「土木」子の至言

土木協會機關の「土木」第二十五號を披見すると中に有益な意見が掲載されてをて我等下級土木生活者も其益を受くること少なくない其の巻頭言の中に「技術者の職責は與へられたる工費を以て、己が技術

の施し得る限りの最良の工事を行ふ事にあつて、勿論自然の脅威に比すれば人間の努力の跡は微々たるもので、堅牢無比を誇る構造物も自然力の前には木ッ葉微塵に打碎かれる場合がある。之を不可抗力として何人も恕し得る場合は問題とせぬが、苟くも吾等は常に自己が擔任した工事に千載の榮辱を決する丈の覺悟が無ければならぬ。それだけの覺悟があり、抱負があつてこそ始めて優秀なる工事を後世に遺す事が出来るのである」と善哉善哉此文の如く技術者が實行すれば青山會長の所謂「人に物云はざらしむるも事實は夫れ自身を物語る」こととなる譯である。斯る状態までに技術界が向上すれば青山會長の言の如く「國土の保全、産業の開發、經濟の基調を爲す治水道路、港灣の修築改良等の經濟國力の充實」は期して待つことを得るのである。理に叶つたる善きことを天に代つて申されたものか。(製圖生)